



一 般 質 問 通 告 書

□一括方式

■一問一答方式

質問

順番

8

東海村議会議長

河野 健一 様

議席番号 3 番 議員氏名 宮本 翔太

質問事項 (件名)	学びの空間整備	答弁者
要旨（具体的に） 本村では、役場の庁舎窓口・執務空間の再整備に約1億6千万円を投じ、職員の働き方改革が進められている。この取組は意義あるものと認識しているが、同様に目を向けるべきは、子どもたちが日々を過ごす学校の環境である。 不登校の増加も進む中で、現在の学校や教室が多様な学びに本当に対応できているのか。これは単なる施設整備の問題ではなく、村の未来をいかに築くかという問いである。 教育への投資は、最も価値ある支出であり、子どもたちが安心して学べる空間づくりが、村の将来を支える基盤になると考える。このような視点から、教育環境の再構築に対する村の考えを伺う。 ①村内の小中学校における教室環境及び家具のレイアウトについて、執行部及び教育委員会としてどのように現状を捉えているか伺う。 ②探究的な学びや個別最適な学びを支えるために、教室空間の再設計や柔軟な学習環境の整備の必要性について、どのように考えているか伺う。 ③学校施設の改修や家具更新にあたっての整備計画の検討状況及び新JIS規格に準拠した教室用机・椅子の普及状況について伺う。 ④役場の庁舎窓口・執務空間の再整備と同様に、子どもたちの学習環境への投資も並行して行うべきと考えるが、村としての基本的な方針を伺う。		

氏 名	宮本 翔太	No. 2
-----	-------	-------

質問事項 (件名)	校則の見直しと生徒参画	答弁者
要旨（具体的に） 校則の在り方については、ダイバーシティ及び人権尊重の観点から、全国的に見直しが進んでいる。文部科学省においても、「必要かつ合理的であり、生徒の人権や社会通念を踏まえた校則運用」及び「見直しへの生徒・保護者の参画」を各学校に求めているところである。こうした校則の見直しに生徒が主体的に関わることは、教育的にも多くの効果が報告されており、自らの意見に価値を見いだし、校則を納得感をもって守る態度や、自主性・対話力・他者理解といった社会的スキルの育成にもつながっている。本村においても、このような全国的な動向を踏まえ、校則の在り方と生徒参画の仕組みについて改めて検討することが求められていると考える。 ①校則は、時代や社会の変化に応じて見直すべき教育的ルールであるとの認識か伺う。 また、村内の学校において、校則がどのように見直されているか伺う。 ②教育委員会として、校則の基本方針を明文化し、各校と共有する考えはあるか。また、校則の全文を公開するとともに、見直しのプロセスを明示するよう推奨する考えがあるか伺う。 ③「まちづくりの羅針盤」に掲げる「こども・わかものの声を聴き、まちづくりに反映するしくみ」は、学校現場においても大切な視点であると考えているが、どのように具体的に実践していくのか伺う。		

質問事項 (件名)	免許返納後も安心して外出できる仕組みづくり	答弁者
要旨（具体的に） 高齢者の外出頻度の減少は社会問題となっている。要因としては、足腰の衰えや慢性的な痛み、転倒への不安といった身体的問題に加え、「どこへ行けばよいか分からない」「一人では不安」といった心理的な壁、交通手段の不備、経済的制約、人間関係の希薄化など、複合的な背景が指摘されている。 このような状況の中で、免許返納後の高齢者が「外出しない」「外出できない」という状態に陥れば、引きこもりや孤立、認知症リスクの上昇につながる。移動支援のハード整備（交通手段の提供）のみならず、そもそも外出したくなる、安心して外出できるようなソフト面の支援策も同時に求められている。 ①高齢者の外出控えには複数の要因があると考えているが、村としての認識と、地域サロンや送迎支援など現在の対応及び今後の取組について伺う。 ②高齢者が気軽に外出できるよう、出かけたくなる場づくりや交流の機会の提供について、村の現状及び今後の支援・送迎・情報発信の方針を伺う。 ③デマンドタクシーにパーソナルモビリティ（次世代型車椅子）を搭載し、目的地到着後の移動を支援する仕組みの導入について、村の見解を伺う。		